

はじめに

日本は世界有数の長寿国で、令和4年、平均寿命の男女平均は84.07歳となっています。人生を有意義に過ごすためには寿命の延伸はもちろん、健康寿命の延伸も重要です。

一方で、高齢化の急速な進展と生活習慣の変化に伴い、総医療費の約3分の1ががん、心臓病、脳卒中、糖尿病等の生活習慣病に関連する疾患となっており、さらに、死亡原因でも約6割を生活習慣病とその重症化疾患が占めています。生活習慣病の重症化は、医療費の増大だけでなく、寝たきりや認知症、人工透析等による生活の質の低下を招き、健康寿命を短縮させることにつながります。

そこで、生活習慣病の発症と重症化や合併症への進行を予防するため、ひいては増加する医療費の抑制を図るためには、市の特性を踏まえた保健事業の実施が必要です。

本市では、平成30年3月に「第2期国民健康保険保健事業実施計画（データヘルス計画）」及び「第3期特定健康診査等実施計画」を策定し、疾病構造や社会資源など地域の特性を踏まえ、特定健康診査・特定保健指導を始め、様々な保健事業を実施してまいりました。

この度、上記両計画の終了時期であることから、次期計画として「第3期新座市国民健康保険保健事業実施計画（データヘルス計画）・第4期特定健康診査等実施計画」を策定しました。

あらゆる世代の皆様が“みらい”に希望が持てる「未来もずっと暮らしに『プラス』が生まれる 豊かなまち 新座」を目指すには、市民の皆様の「健康」が不可欠です。本計画では、健診結果やレセプト内容などのデータ分析から、市の健康課題を抽出し、事業計画を効率的に実施するため、PDCAサイクルに沿って事業展開を図ることで、更なる特定健康診査及び特定保健指導の実施率の向上と被保険者の健康づくりの支援及び生活習慣病の予防を推進してまいります。

最後に、本計画の策定に当たり御協力を頂きました国民健康保険運営協議会委員の皆様を始め、関係機関の皆様に厚く御礼申し上げ、御挨拶といたします。

令和6年3月

新座市長 並 木 マサル 傑